

vol. 148

NEOS

隔月刊ネオス 平成 27 年 1 月 25 日 発行 2015 新年号
公益社団法人全日本ネオン協会



photo : 浅井慎平

サイン屋稼業奮戦記《115》 社名に思いを込めて

関東甲信越北陸支部 (株)ユーネクサス 大澤恵司



昭和61年（1986年）4月、桜がほどなく満開になる季節に株式会社ウララネオンに入社、今から28年前のことである。25歳の春、ここからサイン屋稼業の始まりになる。

ネオンから芸人へ

切っ掛けは Museum of Neon Art(MONA)、ネオンアートの妖艶さに心引かれ魅了され、これが引き金になり時間を見つけては図書館でネオンアート（写真）を見ていた。よくある話だがそのうちに自分でも手掛けてみたいと思うようになる。そうするとネオンはどうやって作るのだ？となる。いろいろと本を探してもネオン発祥の由来はあるものの、どうやって作るのかは分からなかった。作り方を知るには「ネオン屋」に入れば分かるのではないか？頭の中はこれ一本に絞られ、そして手にした求人誌に載っていたのが単刀直入な名前の「ウララネオン」。迷う余地はなかった。

求人内容は営業の募集だったが、お構いなしに面接に出向いた。迎えてくれた役員の方々にのっけからネオンを作りたいと話を切り出した。「営業募集だけど営業はやりたくない！」「ネオンが作れなければデザインをやらせてくれないか？」変な奴が来たなと思われつつも、何とかお願いして工事部に入れてもらうことに相成った。

これでようやく念願叶ってネオンアーティストの第一歩を踏み出すことになる筈だったのだが…。

すこし話を戻そう。「ネオン」と社名についてただけで選んだ会社だが、そもそもウララネオンがどんな稼業の会社か知らなかったのである。いやはや呆れた話である。知らなかったことがある意味でいろいろなことに興味を注いだ。見ることにすることが新鮮で面白かった。おかしい話だが月給もその一つだった。月々同じ給料がもらえることが嬉しく思えた。初めて頂いた給料が16万、今でも明細を大切に持っている。

この仕事をして気付いたこともある。高いところが苦手…いや苦痛に近い。当時の屋上足場では、まれに養生ネットが無い部分もあった。ネットがあるのと無いのでは気持ち的に雲泥の差である。

縄ばしごも多用された時代だ。しかしながら苦手！苦痛だ！と言っていたら仕事にならない。足場に関してはネットを全面に張ってもらうことで解決した。縄ばしごは少しずつ慣れる努力をするしかなかった。まずは低い場所からそして高い場所へと。命綱などしていない、手を滑らせたなら終わりだ、怖さのあまりに腕の筋肉が硬直してその場から動けなくなることは幾度もあった。

でもそんな怖さとの葛藤を緩和してくれるものがあつた。それは大層な表現になるが観衆である。ほとんどの看板が一番目立つところに付いている、そこで縄ばしごを降りて作業をしていると下の方から「エー凄い、何をしているのだろう？」と何人かの女の子の声が聞こえた。オ～見られている。その声がまるで声援のように聞こえ、親指をたてて挨拶すると今度は笑ってくれた。誰かに見られている、なんだか楽しくなって気持ちが和らいだ。大袈裟だが芸人にでもなった気分がした。こんなところは実に頭が単細胞に出来ていることで助かり、それからはどうだ格好いいだろう！と、街行く人を観衆だと思って縄ばしごを降りることにした。

仲間とお金

そもそもネオンアートへの興味だけでどんな会社か分からずして入った会社である。新鮮で面白いのは始めの内で長続きしないかと思いきや、仕事以外が実に楽しかった。今から思えばこれがなければ今がないと言っても過言ではないかもしれない。且つこれがあつたから仕事も自然に苦と感ずることもなく打ち込めたのであろう。そしてやがて「ネオン屋」から「看板屋」に目覚めて行くのである。なにせ単細胞で楽天的に小さじ少々 of 負けん気はここで最大に活かされたわけだ。

周囲には近い年齢が多くいたし、中でもお気に入りの可愛い女の子がいる。こうなれば仕事は二の次で会社に向かう足取りは軽やかになる。ホントによく仲間と遊び吞んで語った。そんなことが出来る環境、そして甘んじて受け入れてくれる寛大さがそこにあつた。

ひょんなことで車を買うことになる。若気の至りと言った方が格好はいいのだが、何も知らなかったと言った方が正解だろう。家の側にディーラーがあり、何気なく入って車を見ていると当り前だが販売営業マンが傍らにきてセールスの開始となる。あれよあれよと立ち話からテーブルに座り商談となり、気がつけば契約成立。BMW3s。なんと360万円、加えて法定点検は30万。月給20万にして60回払いが翌月から始まることになる。家賃と月賦の返済、これを凌ぐ方法はひとつ。いささか発想が貧困だが夜勤作業で残業代を稼ぐ。まさに若さの骨頂でその後を凌ぐこととなる。

楽しい仲間がいる、加えてお金も必要になった。邁進したネオンアーティスト「ネオン屋」を目指した姿は消えていたが、目指す目標はすでに見えていた。…気がした。

俺たちがやらなくて誰がやる

「小さじ少々 of 負けん気」とは何か。熱しやすく冷めやすい質だからこそ、少々が大きな効果を醸し出した。最初に大さじいっぱいにしてしまうと完全燃焼してあとが続かない。だから少しずつ、冷め掛けたらまた少々 of 負けん気を投入して熱を持続させる。その負けん気の根源は「誰がやる」だった。持続させるのは難しいことだ。仕事の話で吞むとしょっちゅう口にしていた。それはみんなに言っているのではなくて、自身に言い聞かせるように…お前がやらなくて誰がやるんだと。のちに「誰がやる」は大きな壁にぶち当たる。

転機

これまでに工事部そして会社の中核を担ってくれた部長が他界された。そして工事部を託された。25歳で工事部に配属されてから14年目のことである。それまで現場一辺倒だったありさまから、工事部を仕切る仕事に一変した。現場段取り積算見積に帳簿整理。やることは山程あり、そのほとんどを経験したことがない自分がそこにいた。だが仕事は待ってくれはしない。覚えている時間など無く、どの様にさばくかが問われたのだ。この経験はその後の仕事に大きな自信と変化をもたらした。

残念なことだがしばらくして会社の経営方針が

変わったことで、工事部を解散することが決まった。部門を“いや部下を”守り切れなかった自分に不甲斐無さを感じた。「お前がやらなくて誰がやる」頭の中で考えても答えは出てこない程にあまりにも大きな壁だ。打開する勇気が欲しかった。独立を決意した。それを後押ししてくれたのはやはり仲間の力だ。これ以上ない勇気が壁を打開した。

会社の設立

社名をどうするか書き連ねあれこれ悩んだ。多くは単語をふたつ合わせた造語、その中にはNEXTとOSW(osawa)を合わせてNEOS(ネオス)もあつた。意外とお気に入りで有力候補だったのだが、最終的に思いを込めたNEXUSに決めた。そして「ウララ」の暖簾をもらい受けてウララネクサス[現ユーネクサク]が誕生したのである。時をまもなくして我が家に長男が誕生した。子供は生まれて直ぐには一人歩き出来ない。親の手が必要になる。NEXUSも子供と一緒に、まだ地に足が着いていない状態での試行錯誤の始まりになった。学年で例えればユーネクサスと長男は同級生、今年で11歳になる。

最近ちょっと生意気になって、自分を主張するようになってきた。反抗期を過ぎていずれ独り立ちするのだろう、おのおのの“その時”を楽しみにしている。

絆 nexus

未明に枕元の携帯電話が鳴った。撤去作業中に事故が起きた一報だった。直ぐに現場に駆けつけるとそこは消防隊で埋め尽くされていた。作業員の安否が心配だったが、幸いにして全員の無事な顔を見ることができた。この事故は様々なところに迷惑を掛けてしまうが、事故処理の対応はいろいろ人に助けられた。恩に着せるようなそぶりなど微塵も無く、当然のように助けてくれた。人と人の絆を強く感じ受けとめさせられた。思いを込めて付けた社名(NEXUS)にも助けられたのかもしれない。

繰り返さないこと

多くは失敗や事故などの経歴は話したがらない。でも知らないで同じことを繰り返すことは非常に

むなしく、そして悔やまれる。目を背けずにしっかり見返すと、そこには必ずして原因がある。それは意外と些細なことが発端であり、簡単な手筈を整えれば防げることが多いことに気付く筈だ。だからこそ話さなければならない。そして同じ失敗をすべきではない。

これからの人生

切っ掛けからは少しそれたが、人生の半分以上を生業としてきた看板屋。多くの出会いがあり沢山の人達に支えられ、時には押されて今があるに違いない。ひとりで歩くことは寂しくつまらぬことに思えてならない。ならば一緒に歩み一緒に見て楽しむことが一番大切なことに思える。迷い悩むことはこれからも尽きることはないだろうが、仲間がいればきっと切り開いていける事をこれまでの人生で教えてもらった。教えてもらったことは教える事で返していきたい。教え方は不器用だけれど精一杯の気持ちをこめて伝えようと思う。

でも何せ単純で単細胞はこれからも相変わらずかもしれない。思い立ったらまっしぐらだけれど結果はとんちんかん、いやはや歳を積んでも変わらないところは多いと気付く。

謝意

28年間の中では此畜生と怒り心頭な時もあったが、こうして思い返してみると何故あんなに怒っていたのかと改めさせられた気持ちになる。言うは易く行う（活字）は難し。

書くからこそ思い出すことが沢山あり、振り返ることは初心を顧みる切っ掛けが出来たことに心から感謝します。



～ NEOS twitter ～

ホテルニューグランドのネオン

前号の標題記事では「クラシックホテルにはネオンのような優しい光が最も相応しい」ということで採用になったとのこと。嬉しい限りです。普段、業界で主張してきたネオンの良さがやっと一般社会にも受け入れられたなと言う思いです。私はLEDのどぎつい光は日本人の感性に合わないと思ってきましたが、これが日本人のいつわらざる心情ではないのでしょうか。

ホテルニューグランドでは1階のThe Caféでもチューブオンリーネオンを掲げています（同記事にも掲出）が、2012年NEOS新年号でも井原理安さんが表紙に取り上げています。ご参考までに。

ネオンの復興を願う会員

屋内・外サイン照明資材総合卸

阿部電材株式会社

本社 〒173-0021 東京都板橋区弥生町72-8 TEL03(3974)4021(代)
アベデン東北 〒983-0821 宮城県仙台市宮城野区岩切字東河原311-3 TEL022(255)5322

高所作業はおまかせください！

安全

最新

迅速

SINCE 1996
AUTO RENT

取扱い機種

高所作業車 9.9m~50m
建柱車 ラフタークレーン
パッカー車 ダンプ 他

取扱いサービス

ガラス・外装・床クリーニング業務
サポート・請負作業承ります。
オペレーター付・回送・道路使用・現場調査

www.autorent.co.jp

AT-400CG

関東地区の高所作業の際はご連絡を！



オートレント

本社
TEL:048-283-0341 FAX:048-283-0987
埼玉県川口市里 899

レンタルステーション★環七足立
TEL:03-5838-0861 FAX:048-283-0987
東京都足立区堀之内 2-15-13

川崎リースセンター
TEL:044-850-8791 FAX:044-850-8792
神奈川県川崎市高津区北見方 1-27-19

宇都宮リースセンター
TEL:0282-85-0401 FAX:0282-85-0400
栃木県下都賀郡壬生町安塚 1780-1

浦和美園リースセンター
TEL:048-283-0341 FAX:048-283-0987
埼玉県さいたま市緑区大門 1875-1

サポートステーション東京葛飾
TEL:03-5671-3961 FAX:048-283-0987
東京都葛飾区東新小岩 2-19

首都圏サポートステーション
TEL:048-283-0341 FAX:048-283-0987
埼玉県草加市谷塚仲町 415-1

サポートステーション所沢
TEL:049-274-1211 FAX:048-283-0987
埼玉県入間郡三芳町竹間沢 186-1

戸田車輛センター
TEL:048-283-0341 FAX:048-283-0987
埼玉県戸田市笹目北町 2-11

三郷車輛センター
TEL:048-949-0291 FAX:048-283-0987
埼玉県三郷市駒形 116-1

サポートステーション東京ベイ
TEL:03-5534-0671 FAX:048-283-0987
江東区辰巳 3-17-8

サポートステーション横浜港北
TEL:045-590-3511 FAX:048-283-0987
神奈川県横浜市港北区高田町 1945